

*** 26インチ望遠鏡の掩蔽観測用接眼部を発見**

アーカイブ室新聞 62号で天文情報センターのプレハブ倉庫に26インチ赤道儀望遠鏡ドームから移された古い観測器械類などが収蔵され、誰の目にも触れないでいたものを展示のためPMCに移したと報告した。この移したものの中に写真1のような、アイピース4本が付いた比較的大きなものがあった。この奇妙なものはいったい何に使われたものか分からないでいた。この奇妙な接眼部についてひよんなことから情報が得られた。情報を寄せてくれたのは26インチ望遠鏡の最後の観測者であった畑中至純氏であった。氏の話では、これは26インチ望遠鏡の掩蔽観測用の接眼部だということである。4本のアイピースは26インチ望遠鏡の焦点部で「月の像」の縁に沿って置かれており、月に入る星、あるいは月の縁から出てくる星を観測するものだという。これは貴重なものを発見した事になった。



写真1 4本のアイピースがついた接眼部

さてまた、昨日、小池さんが現れて、26インチ望遠鏡の写真撮影用の取り枠について何か知らないかと尋ねられた。先のいろいろなものをプレハブ倉庫からPMCに運ぶ作業をしている際、ほぼ同じ大きさの箱が2個(写真2)あり、一方の箱に写真1の器械が入っており、もう一方の箱には、一緒に作業をした佐藤英さんの話では、この箱の中のものは畑中さんが26インチ望遠鏡で使っていたものということであったが、25cm角ほどのガラス板と

何かの制御ハンドセットのようなものがあるのみであった。そこでこの一方に箱はそのまま倉庫に残したのであった。そこで小池さんとその箱の中を再度点検するために出向いたが、写真の取り枠に関係するようなものはなかった。



写真2 上の木箱に掩蔽観測用接眼部があった

それでは、畑中さんに何か覚えはないか聞いてみようと、別の用件で学会事務所に行った際、畑中さんに尋ねてみた。畑中さんの話では、この木箱のことはよく覚えていて、確かにそのガラス板が入っているほうの箱のなかに写真乾板の取り枠が入っていたそうだ。写真乾板取り枠は多分捨てられてしまったのだろうということになった。この箱の中の制御ハンドセットのようなものは、撮影用タイマーであった。

この時、ついでに4本のアイピースの付いたものについて尋ねたら、掩蔽観測用の接眼部だと教えてくれたのであった。